

研究所ニュース No.86

りべらしおん

「りべらしおん」は、フランス語で「解放」という意味です。

発行：公益社団法人 福岡県人権研究所

〒812-0046 福岡市博多区吉塚本町13-50 福岡県吉塚合同庁舎4階 TEL 092-645-0388

FAX 092-645-0387 Mail:info@f-jinken.com URL:http://www.f-jinken.com/

報告

2017年12月25日(月)～12月28日(木)

「第13回海外人権スタディツアー in タイ」に参加して

(会員 高松美保子)

私の右手には数本の木綿の紐が結ばれています。「生き直しの学校」の子どもやスタッフの方たちが、旅の安全と新年の幸福を祈って一本一本結びつけてくれたものです。

◇ ◇ ◇

2017年12月25日～28日、14名でタイを訪れました。

26日午前中に訪問したドゥアン・プラティープ財団は、バンコク最大のスラムのあるクロントイ地区にあります。教育推進事業、スラム地域開発事業、人材育成事業、緊急支援事業の分野で活動を進めるNGOとして2018年に財団設立から40周年を迎えます。現在、学校給食、国籍の取得、「教育里親」の募集、スラムの立ち退き問題と、子どもたちの生きる基盤を整える活動に取り組んでいます。クロントイスラムで育ち、半分しか小学校に通えなかった財団代表のプラティープ・ウンソントム・秦さんは、16歳の時、小学校

に通えない子どものために姉のミンポンさんと自宅軒下で「1日1バーツ学校」と呼ばれる塾を始めました。この活動はラモン・マグサイサイ賞を受賞し、財団を開設して子どもたちへの奨学金の支援を始めました。長い住民運動の末、この塾は公立学校となり、現在は4小学校と1中学校が建っています。

◇ ◇ ◇

財団職員の方と小雨のクロントイスラムを歩きました。この場所は元々湿地で、財団の前の道も雨が30分降ると2時間は水が引かないそうです。それは衛生環境の悪さにつながっています。また、公共サービスを全く受けられない状態にもありました。ここには12万人が住み、その30%は就学適齢期ということです。人が離合しにくいほど狭い道幅、漂ってくるゴミの臭い、犬や猫の糞。道ギリギリに建っている1世帯1部屋らしいバラック。開いたドアから見える室内に

はビニルの床材が敷かれ、隅に調理スペースや僅かな家財が置かれていて、平日の日中にもかかわらず、大人や子どもが寝そべてテレビを見ていました。スラムの中に携帯電話の自動支払機がありました。通路に面した軒下は、4～5軒に1軒の割合で総菜屋や雑貨屋になっていました。元手のいらない収入を得る知恵です。



(写真：お店の様子)

スラムの居住者の方にも話を聞くことができました。財団の奨学金で大学の医学部に進学し、現在インターンの息子をもつお母さんは軒先で小さな総菜屋を営み「息子は、スラムの子どもたちに希望を与えている」と微笑んでおられました。

また、高速道路の出口の坂の下で生活していたご家族は、父と息子が過酷な生活で失明し母一人で家族を養っていて、スラムに住居を提供されるなど財団の緊急支援を受けていました。

スラムの中には幼稚園があり、園児はごみ出しや食器洗いなどの生活習慣を学び、自分で考えて行動することなどを身につけるモンテッソリ教育による学習をしていました。



(写真：幼稚園の様子)

その後財団に戻り、相談役の荒巻裕さんとボランティアの中川紀子さんに話を聞きました。現状を見て怠惰だと批判するのではなく、なぜその状況になったのか背景を知ることが大切だということです。

午後からは財団の人材育成事業の一つ「生き直しの学校」カンチャナブリ校を訪問しました。ここは、家庭崩壊や虐待で苦しんでいた子どもたちが豊かな自然の中で共同生活していると、15歳以下の約60名が過ごしています。バンコクからバスで2時間半、到着すると子どもたちが出迎えてくれ、一人ひとり手を取って笑顔で室内へ案内

してくれました。施設の説明を聞き、果樹や畑、林の広がる広大な敷地を子どもたちと共に散策しました。子どもたちが食べる野菜や収入源となる花苗、そこで使う肥料も作っているとのことでした。職業訓練用の建物もいくつかあり、平日放課後はアブラヤシの果樹園や畑での農作業、週末、学校が休みの日にはパンやケーキを作る実習、自国の文化を学ぶ民族舞踊の習得、美美容の練習など進路保障につながる取り組みが行われています。また、子どもたちの宿舎は清潔な建物で、共同生活をする中で生活習慣を習得していくとのことでした。女の子たちは「ここで寝ているの」と身振り手振りで教えてくれました。



(写真：登校前の子どもたち)

子どもたちと合流しての歓迎会では、財団の方の思いをお聞きした後、子どもたちによる民族舞踊やダンスのお披露目があり、一緒に「大きな栗の木の下で」を振り付きで歌いました。最後に「ハッピーニューイヤー」と言いながら、はにかんだ様子で祈りを込めた

紐を一人ひとり手首に結んでくれ心が温くなりました。この日は森の中のゲストハウスで宿泊しました。

翌朝、ハグをしてスクールバスに乗る子どもたちを見送り、生き直しの学校を出発しました。

午後は歴史的な寺院や仏塔、仏像の残る世界遺産「アユタヤ遺跡」と「アユタヤ日本人村跡」を見学しました。夜はバンコクに戻り、王宮などのライトアップの見学と、「アジアンティーク・ザ・リバーフロント」を散策しました。人々の活気、多様な国からの観光客の多さに圧倒されながらもタイの特産物や言葉など文化を感じることができました。



今回の海外人権スタディツアーでは貧困・格差社会の連鎖からの解放のために、状況を把握し対処を考える財団や、生き直しの学校の揺るがない取り組みに学ぶことがたくさんありました。日本とタイ、遠く離れ文化も生活も違うけれど出会えた私たちが手をつなぎ、そのつないでくれたものを離さないでさらにつないでいきたいと思えます。他人事としてとらえず声を上げていくこと、自分の日常を見直していくことなどからしていきたいと思えます。微力ではあっても無力ではないと信じて…。

(たかまつ みほこ)

<会員の声>

～福岡における公立夜間中学校をつくる取り組み～

(会員 大塚正純)

○夜間中学校を知っていますか？

「学ぶことは生きること」、この言葉は、福岡市博多区の中学校の一室を借りて行っている自主夜間学級・よみかき教室に掲示されている言葉です。教室には、上は90代から下は30代まで生徒さんたちが水曜と金曜の夜に通って来られます。生徒さんたちは、年齢・国籍・読み書きの力もそれぞれですが、一様に「この教室にたどり着くまで何年もかかった」とよく話されます。戦後の混乱期には福岡県内でも10を超える夜間中学が存在していたのですが、20年前によみかき教室を始めた頃にはなくなっていました。しかし、東京や大阪、そして広島では公立の夜間中学校が続けられていました。

○「形式卒業生」と夜間中学校の必要性

高度経済成長期を迎えた1960年代に、国から「夜間中学廃止勧告」が出され、全国で80校を数えていた夜間中学も、いったんは20校まで激減したのですが、15歳を超えて義務教育が未修了のまま社会に出て働かざるを得なかった人たちはこの社会に存在していました。戦争で孤児になられた人、家庭の事情・貧困・病気などで小・中学校に通えなかった人、また、海外から引き揚げてきた人や様々な事情で日本に居住することになった在日外国人、そして「障がい」を理由に就学猶予や免除をされた人、不登校により実質的に教育を十分に受けていない「形式卒業生」などの人たちです。

夜間中学には、その時々々の社会の問題を反映した人たちの学ぶ姿がありました。

2010年の国勢調査で義務教育未就学者は全国で約12万8千人、福岡市においても1842人の未就学者がおられることがわかっています。

○文部科学省も設置を促しています

2016年12月、夜間中学・自主夜間学級の生徒・教師・ボランティアによる長年の取り組みにより「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会確保に関する法律(略称「教育機会確保法」)」が成立し、国・文部科学省も「各都道府県に少なくと

も1校を」と設置を促しています。この法律を追い風として、全国で夜間中学設置の動きがみられ、2019年4月には埼玉県川口市と千葉県松戸市で公立夜間中学校が開校します。



(上：文部科学省の広報より)

福岡市に公立夜間中学校をつくる会は、今後も活動目標として、行政に夜間中学設置を求めていくことはもちろんですが、「学び」「学び直し」を求める皆さんに夜間中学という学びの場があることを知っていただくこと、市民の皆さんには、読み書きを始めとする「学び」を求める方がこの社会にはおられることを伝えることを通して、この福岡の地に公立夜間中学設置を実現させたいと思っています。

*未就学者とは、「学校に行ったことがない」または、「小学校を中退した」人です。

○公立夜間中学校の現状

現在、公立夜間中学校は首都圏、関西圏政令市に合わせて31校設置されています
東京都8校・千葉県1校・神奈川県2校
大阪府11校・京都府1校・奈良県3校
兵庫県3校・広島県2校

(2017年12月 現在)

(おおつか まさずみ)

2018年2月7日(水)

訃報

松尾祐作理事 (本研究所所長、元福岡教育大学学長)



松尾祐作理事(本研究所所長、元福岡教育大学学長)が2018年2月7日(水)に急逝されました。享年76。

2018年2月10日(土)に福岡市東区内で葬儀が営まれました。葬儀には、部落解放同盟中央執行委員長・同福岡県連合会委員長組坂繁之さん、元環境大臣松本龍さんや福岡教育大学関係者や教え子である教育関係者など多くの方が参列しました。

本研究所森山沾一理事長は、弔辞で松尾所長との出会いや福岡教育大学学長としての実績及び本研究所所長として研究所を支え福岡県内外の人権問題施策及び人権教育の推進に大きな働きをされたことなどの功績を述べました。また、本研究所迫本幸二事務次長は、学生時代に松尾先生から「青年として、物怖じしてはいけない。誰のための行動か、その意志を明確にして、チャレンジしてみろ」と言われたことを紹介しました。また、穏和な口調で語られつつも内容は強い意志と鋭い批判的精神に満ちたものであったこと、人権教育の仕事を通じて、先生と関わりのあった教師たちと出会うことができたことは、松尾所長の教えが受け継がれた証だと思いと述べました。

松尾所長が本誌81号(2017年4月25日発行)に書かれたものを一部抜粋再掲しご冥福を祈ります。

待ちの姿勢から 攻めの姿勢への転換をめざして 所長 松尾祐作

福岡県人権研究所が公益社団法人化した4年が経過しました。「経営安定のプロジェクト」では、研究所の基本姿勢を「待ちの姿勢から攻めの姿勢への転換へ」と求めています。そのために①会員・読者の目線を重視する、②あそこにいけば楽しい、親切だ、いろんなことがわかる、と、言ってもらえる場所となる事を重視する。つまり「経営安定のプロジェクト」の提案は、研究所が「会員・読者にどれだけ近づけるか」が行動目標とならなければならないと、強調しています。

直ちに着手すべき事柄も、中長期的な視野からの取り組みもあるでしょう。少しでも要望に応えるべく新年度(2017年度)から事務局体制の強化に取り組んでいます。

とはいえ、山積する課題に対処するには事務局や執行理事会だけでは限界があります。会員各位の広範かつ強力な運営への参加を切望するところです。

(事務局)

2018年度定時会員総会・総会後記念講演

日時：2018年5月27日(日) 13:00 開会
場所：クローバープラザ7階
ヒューマン・アルカディア(視聴覚室)
〒816-080 春日市原町3丁目1-7
*総会後、記念講演など詳細は、次号で

決算の時期です。
会費納入のお願い
公益社団法人の財政基盤は、個人会員・団体会員による年会費です。
**個人会員6,000円(学生3,000円)、
団体会員は10,000円。**
未納の方は至急納入をお願いします!

報告

アウシュビッツ

訪問記

2018.1.16~1.22

理事長 森山沾一

「アウシュビッツ」や「南京」は、もう20~30代の50%以上はびんと来ない時代になっています。会員の皆様は訪問済みの方々も多いことでしょう。しかし私は初めてでした。

中国には20回以上行き、それ以外の海外にもかなり行っています。南京訪問はなかなか行けず、10回目中国訪問の節目で決心しました。その後、南京師範大学と福岡県立大学は江蘇省と福岡県が交流協定を15年前に結び、県の補助を受け学術・留学生交流協定を推進し、今も続いています。

西欧には、会員のイアン・ニアリー教授とのつながりなどでイギリス調査・観光などしてきました。今回は県立大学をやめた節目の旅としてポーランド世界遺産4つの6日間の旅に出かけたのです。

世界遺産にはアウシュビッツ・ビルケナウと岩塩鉱山

の二つがありました。15名の安価な観光ツアーで、いずれも5時間余りの訪問でした。この二つについて、予習をネットなどでいろいろとして行きました。

5時間ほどの訪問でしたが、いずれもショックと発見は大きく、だらりと日々過ごしている私を改めて覚醒させてくれました。

ナチズムの極悪非道を物語る事実としてのアウシュビッツとそこから2km離れたオーセンチス町にある第二強制収容所ビルケナウ(写真下)



は、周知のように広島原爆ドーム同様、「負の世界遺産」で有名です。

この世界遺産を案内する日本人ガイドはたった一人、中谷剛さんが3時間ほど詳しく丁寧に、しかも鋭い切り口で案内してくれました。

ご存知のように130万人のユダヤ人などが1941年から45年の4年間に強制連行

され、そのうちの110万人が殺され、亡くなっています。ガス室、銃殺の場所、独房、宿舎などがそのまま、あるいは復元されて在ります。

戦後、ナチスの現場責任者(普通のおきパパであったのです)を絞首刑にした絞首台も復元されています。ユダヤ人一般だけでなく、障がい者、同性愛者もまとめさせられて虐殺された写真、資料も展示されています。ユダヤ人以外の各国政治犯、ロマの人々もいたことはあまり知られていません。

私も、現地に行ったからこそ実感しました。

こうした人間のおぞましい闇の中の光を観ようとする人々が年間何十万も訪問し、その数は増えつつあるとのこと。日本からは3万人ほどでしたが、一昨年から7万人に増えているようです。これは何を意味するのでしょうか?

私たちは決してこうした過ちを繰り返さないためにも、人間の凶暴性・理性の本質をもっともっと研究し発信する必要があるでしょう。

(もりやま せんいち)

ウリ・サフェ第23回講演会

大阪市ヘイトスピーチ対処条例

~成立を導いたオール生野区住民の今後の課題~

講師：文 公輝(むん こんぷい)さん

日時：2018年3月24日(土) 14:30~

会場：福岡県教育会館第2会議室

*詳細は同封のビラ参照

第29回三・一文化祭

多文化交流広場

~出会い・交流・共生~

日時：2018年3月25日(日) 10:30~15:30

場所：福岡市立千代小学校体育館

*詳細は同封のビラ参照

<2018年2月17日(土)>

公益社団法人福岡県人権研究所 第2回外国人問題部会
「留学生事情 一本当は何しにNIPPONへ？」

2018年2月17日(土)、北九州生涯学習総合センターにて、2017年度第二回外国人部会を開催し、14名の参加がありました。今回は「留学生事情一本当は何しにNIPPONへ？」というテーマで、北九州YMCAの日本語学校に勤務しながら留学生のサポートをしている齋藤雅美さんと、ネパール出身の元留学生で、現在は小倉でインド・ネパール料理レストラン「クークーリー」を営んでいるGCナビンさんをお招きして、日本語学校の留学生の置かれている現状について、お話をいただきました。

<齋藤雅美さんのお話から>



北九州では2000年以降、留学生の数が急速に増え、深夜のコンビニのアルバイトでもよく見かけるようになりました。食品加工業や介護の現場も留学生に支えられる一方で、日本での学費や生活費を稼ぐために無理なアルバイトを続け、日本語学校での出席率・成績が下がり、留学ビザの更新ができないなどの悪循環も起きています。齋藤さんはこのようなデメリットを軽減する有効な方法の一つとして、留学生を支える個人レベルの活動を、他と共有・情報交換していく「ネットワークのフル活用」を提案されました。

<GCナビンさんのお話から>



ナビンさんは2012年にネパールから日本へ留学し、来日当時、日本語は全くできなかったといいます。ネパールでは、18歳くらいから留学する人が多く、英語力は高いので、人気の留学先は、アメリカ、オーストラリア、日本の順だそうです。ナビンさんは日本に留学する際に、渡航費や一年分の学費、半年分の寮費として合計130万円を支払って来たといいます。先に日本に留学した先輩達は、月20~30万円稼いで、祖国の両親へ仕送りをしていたので、自分も日本へ行けば稼げると思って来日したものの、現実はかなり厳しく、アルバイトを2・3つ掛け持ちしなければ生活できなかったそうです。日本でのレストランの開業資金は両親に出してもらい、現在は少しずつ返済しているとのことでした。

参/加/者/の/感/想/か/ら

○最近少しはメディアでも外国人留学生制度が多少とりあげられることもあります。まだまだ外国人の方々に対して政治も社会も配慮が足りないと感じます。

○元留学生から少し本音が聞くことができた。もう少し別の視点から話す人も欲しかった。(事務局)

<開催日程決定>

- ◇人権社会確立第38回全九州研究集会
日時:2018年5月15日(火)~16日(水)
場所:鹿児島市
主催:「人権社会確立第38回全九州研究集会」実行委
- * * *
- ◇第37回九州地区部落解放史研究集会
日時:2018年8月25日(土)~26日(日)
場所:熊本市
主催:九州地区部落解放史研究協議会

定期購読しませんか

月刊「部落解放」

人権問題・部落問題に取り組むために役立つ雑誌です。

3月申込から4月号。

月刊648円×12ヶ月

増刊1,080円×年4回

合計12,096円

*新しく申込む方は同封のピラで



2018年2月10日(土)

全国部落史研究会公開講座 in 大阪人権博物館
「部落史研究における地名・人名をめぐって」

2018年2月10日(土)に大阪人権博物館で、全国部落史研究会第1回公開講座「部落史研究における地名・人名をめぐって」が開催されました(部落解放・人権研究所第一研究部門との共催)。インターネットの普及や情報技術の高度化に伴い、急速に情報化社会が進展する一方で、被差別部落の所在地等がインターネット上に掲載される等、従来では考えられなかった問題が生じています。部落史の研究を行う環境も大きく変化してきており、部落史研究における地名・人名の取り扱いを巡って、各地の現状報告を元に活発な議論が交わされました。

<写真下:左から(司会)渡辺俊雄、(報告者)太田恭治・割石忠典・阿南重幸・廣岡浄進>



①太田恭治さん(あとろえ西濱)「差別表現と糾弾—歴史記述、地名などを中心に」

太田さんは、かつて部落解放同盟中央本部文化対策

部で、芸術・文化における差別事象に対応してきた経験から、差別表現に対する解放運動の見解と糾弾史をふりかえり、今後の歴史研究のあり方、とくに賤称語、地名の扱いについて問題提起した。支部レベルでの抗議、回収までしてしまう事例がみられるが、必ずしも中央本部の見解と一致しない。歴史的史料は抹消されるべきではないが、当事者がいることに想像力を持ち、予断や偏見が生じないように最大の配慮をすべき、と提案した。

②阿南重幸さん(長崎人権研究所)「古地図の『展示』・公開』を考える」

江戸時代の「古地図」の公開と展示に関して、問題はないとする「傍観者の立場」、差別に繋がるので抹消しようとする「否定的立場」、歴史的に位置づけようとする「積極的立場」、という3つの立場を紹介した。インターネットという媒体がどんな問題を引き起こしているのか、公開と制限については一定の見識を持つべきではないかと提起した。

③廣岡浄進さん(大阪観光大学)「研究機関等による古地図のインターネット公

開の現況」

近年、大学や博物館などの研究機関が所蔵史料のデジタルアーカイブ化、ウェブ(インターネット)での無償公開を進めている。その中には、「かわた村」などの集落について賤称が書きこまれている古地図が散見され、被差別部落の所在地暴きに悪用されているとの指摘がある。問題を共有するために、古地図のウェブ公開の現況を調査して、国内外でダウンロードできる古地図をいくつか会場で映写して確認した。

④割石忠典さん(芸備近現代史研究会)「地名・人名と個人情報保護」

現在において個人情報保護の課題は、日々の生活で身近な問題となっている。また、個人の承諾もないままに「個人情報が漏洩する」ことが大きな社会問題となっている。昨今は被差別部落の地域や個人を特定した情報がインターネット上に掲載されている状況がある。こうした状況の中で、部落史研究における地名・人名について、現在、各地で刊行されている部落史研究資料集における凡例・伏せ字基準などの事例を紹介し、今日的な問題と課題について考察した。(事務局)

事／務／局／日／誌／か／ら (2018.1.4~2018.2.28 講師等敬称略)

1月

- 4 木 仕事始め
- 6 土 部落解放同盟福岡市協議会旗開き(福岡市)
- 9 火 事務局会
- 10 水 部落解放同盟福岡県連合会旗開き(福岡市)
- 11 木 法務局理事変更手続き
- 13 土 第9回部落史研究部会(古賀市) 第8回教育部会(福岡市)
- 15 月 事務局会 編集会議
- 17 水 第89回松本・井元研究会
- 21 日 九州地区部落解放史研究連絡協議会事務局会(熊本市)
- 22 月 事務局会
- 23 火 吉塚合同庁舎避難訓練
- 29 月 事務局会

住民意識調査等の受託事業に関する事務、研究・研修や教育・啓発に関する相談業務、研修会の企画・運営、講師依頼への対応、補助金申請や事業報告、公益法人関係事務、関係機関・団体等との連携・調整事務等については一部省略しています。

2月

- 3 土 福岡県人権啓発情報センター講演会・第44回特別展
「熊本震災と障がい者を受け入れた避難所」(講師/花田昌宣・井上ゆかり)
- 5 月 事務局会
- 7 水 大牟田市「人権のまちづくり啓発リーダー養成連続講座」(第3回/受託事業)
- 9 金 故松尾祐作理事(所長)通夜
- 10 土 故松尾祐作理事(所長)葬儀 全国部落史研究会公開講座(大阪市)
- 12 月 研究助成プロジェクト選考委員会 第5回執行理事会
- 17 土 外国人問題部会(北九州市) 部落史研究部会(古賀市)
- 19 月 事務局会
- 20 火 部落史研究部会打合せ
- 21 水 第90回松本・井元研究会
- 24 土 福岡県人権・同和教育実践交流会(古賀市)
- 26 月 事務局会

<会員の方が出した本>

内田博文『治安維持法と共謀罪』
(岩波新書 定価840円+税)

~表紙紹介文から~



“いま戦前回帰の企てが顕著になっている。

治安維持法は、市民刑法から治安刑法への転換の象徴であった。

戦後、法の廃止に逆らい、治安維持法下の諸制度は「戦時の衣」を「平時の衣」に切り替え、例外から原則の諸制度に逆転し、拡大されることになった。

共謀罪が創設され、いま大きく変容しつつある日本の刑事法を問う。”

丸木俊さんの最後の絵本『いのちの花』

英語版 Inochi no Hana
ついに完成!

文: そのだひさこ 絵: 丸木俊 題名: 丸木俊著 訳: Jun Neary

<そのだひさこさんのことば>

○「五人衆」の詩を書きたいと思ったとき「何としてでも単に殺された話としてではなく“いのち“がひるがえり、いきつづけている絵本にと！」

○『「殺された瞬間に人間になった。」という絵を描いて!』と懇願。現れでてきた俊さんの絵に、私は息をのんだ、そこには・・・

○オカリナのすばらしい奏者・山口さんとコラボの朗読劇CDも完成。

*詳細は、同封のビラを参照